

ビジターセンター行事「ザリガニを調べよう」

- 1 日時：令和2年9月20日（日）午後1時30分～3時30分
- 2 参加人数：4人
- 3 講師：保崎有香氏、太田充氏
- 4 講座の内容

(1) 開会の挨拶（内野）

今年はコロナウィルス感染拡大により、センター講座の開催が遅れてしまった。今後は状況を考慮しながらできる限り開催したい。今後ともご参加をお願いしたい。

(2) 講話および事前説明（保崎）

講師は、磐田南高校在学中生物部に所属していたとき、ベッコウトンボの激減を受け、保護・増殖の調査活動を行った。大学・大学院では生物多様性（外来種アメリカザリガニからの生態系管理）について研究を進めた。

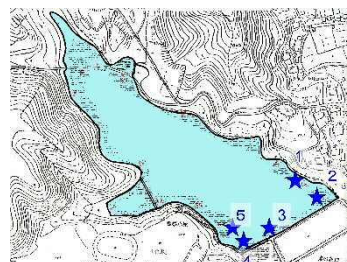
アメリカザリガニは1927年に鎌倉においてウシガエルの餌として北アメリカより27匹日本に持ち込まれたが、その後日本全国に分布するに至った。

桶ヶ谷沼では1999年にアメリカザリガニが急激に増え、翌年ベッコウトンボの羽化数が激減した。相関関係はよくわからないが、激減の要因の一つと考えられた。その後、ベッコウトンボの保護のためアメリカザリガニの駆除を進めている。

桶ヶ谷沼の食物連鎖は、ウシガエル・ライギョ・アカミミガメがアメリカザリガニを食べ、アメリカザリガニはヤゴ・水生昆虫・小魚・落ち葉を食べる。水草は食べないが切ってしまう。そのためヤゴの保護や沼の環境保全のためにはアメリカザリガニを増やさないようにしたい。

毎年、年2回、7月と9月に沼の8か所に2個ずつトラップを仕掛け、アメリカザリガニの定期調査を実施して統計調査を行っている。

今日の調査会のため、昨日右図5か所にトラップを仕掛けた。今日はそれぞれのトラップの、①水深、②水温、③水草の量、④落ち葉の量、⑤トラップに入っている生き物の種類と数、⑥アメリカザリガニのオス・メスそれぞれの数と大きさ、⑦その他気づいたことを調べ記録する。トラップにはザリガニのほか、カエル、カメ、ライギョ、モツゴ、ナマズが入っているかもしれない。



(3) 調査・捕獲（保崎・太田）

参加者を2グループに分けトラップ1・2と3・4・5の調査を行い、①水深、②水温、③水草の量、④落ち葉の量、⑤トラップに入っている生き物の種類を調べた。トラップ1、4、5にアメリカザリガニが入っていた。トラップ2にはアメリカザリガニはいなかったが、スッポンが2匹入っていた。トラップ3は何も入っていなかった。トラップ4にはカニも入っていた。

(4) ビジターセンターでの集計・結果

捕獲したザリガニをセンターに持ち帰り講師の指導のもと、オス・メスの判別とノギスを用いての大きさ調査（L：30mm以上、M：15mm以上30mm未満、S：15mm未満）を行い、それぞれの頭数を集計表に円形シールで表示し、ビジターセンター内に掲示した。下がその結果である。

トラップ番号	サイズ	オス	メス	水深(cm)	水温(°C)	水草の量	落ち葉の量	その他
1	L	1		23	21	少ない	多い	
	M	11	7					
	S	8	10					
2	L	0	0	35	22	なし	少ない	スッポン2 25cm 16cm
	M	0	0					
	S	0	0					
3	L	0	0	35	24	なし	少ない	深いとザリガニがいない
	M	0	0					
	S	0	0					
4	L	6	3	27	22	少ない	多い	モクズガニ1
	M	21	11					
	S	0	0					
5	L	1	0	18	23	なし	多い	浅く落ち葉が多い
	M	51	55					
	S	1	0					



所長挨拶



講話



水温・水深の記録



トラップの引き上げ



大きさ調査



集計表の作成